天文用語に關する私見 (4)

(山　本　生)

星の名と，星座の名について

星座名のついでに，最近の一新問題として述べたいのは，支那の天文學名のことである．中にも，近頃，彼國から發行された「天文學名詞」を見ると，下記の二つの星座名が，日本で用ゐられてゐる名稱と比べて，妙に混雜して了つてゐる．

原　語	支那語	日本名
Camelopardalis	鹿豹座	麒麟座
Monoceros	麒麟座	一角獸座

同樣に，(星座の名ではないけれど) 下の如き場合もある．

Meridian Circle	子午儀	子午環
Transit Instrument	中星儀	子午儀

こんなわけであるから，吾人が只單に文書に書かれた學名として「麒麟座」や「子午儀」といふ文字に遭遇した場合に，先づ其れが日本語であるか，支那語であるか，又は，其の筆者が日本人であるか，支那人であるかを調べてからでないと，此等の術語の本統の意味が解し兼ねるのである．迷惑でもあり，滑稽でもある．元來，日本人と支那人とが，共に同じ漢字を用ゐるのであるから，學名などの決定には，單に各々の國內だけの協定に委せず，一應，國際的の打ち合はせなどを行ふべき筋合ひだと言はなければならない．例へば，同じ English を用ゐてゐる英米兩國に於いて，今若しも同じ一英語を以つて，英米兩國の人々が，別々のラテン語の譯名だと決定したならば，之れを書く人も，讀む人も，始終其の解釋に迷はされて，むしろ英語譯そのものの使用を不便とし，敢へてラテン語そのまゝを日常にも用ゐるのを便利とするに至るであろう．上記の如き日支兩國語の場合も全く此の通りなので，實に困つたものである．—— 只，幸か不幸か!! 今や，支那側の天文學名は正式に決定して了つたのであるけれど，日本での天文學術語は未だ正式に決定してゐ

ないのだから．將來，日本で之れを協定する場合に，可なりの妥協的態度を以つて，既に動かすべからざる支那語へ道を讓るだけの度量を持つことが出來れば，理屈は兎も角として，實際上の不便を無くすることは出來る筈である．我が學界識者たちの熟考を促す所以である．

星座名が今日の日本語界に於いて可なりマチ々々であるのに比べると，個々の星の名は比較的によく統一されてゐて，大問題は無い．但し，星個々の名としては，洋名のみならず，昔し支那から移入された「狼星」だの，「角星」だの，「大火」だの，「牽牛」だの，「織女」だのと言つたやうなものが現に或る程度まで用ゐられてゐるのであるけれど，しかし，少くとも學界や俗界一般に於いて，洋式にしろ，漢語にしろ，呼び方が混雜して，意味の不明瞭を來さしめるといふものは殆んど見當らない．之れは誠に結構なことである．それに，何れかと言へば，態々，星の古い漢名を用ゐる人は多くは舊式の文人であるし，新時代の天文學者は殆んど皆，洋名を正式のものとして用ゐてゐるものだから，甚だ以つて都合が良い．

只，星の洋名を日本流にカタカナで書き表はす場合に，いろ々々の立場の違ひや，流儀の違ひから，多少の差違が人によつて現はれることがある．例へば，Regulus を「レグルス」と書いたり，「レギュラス」と書いたり，又，Spica を「スピカ」や「スパイカ」「スピーカ」等と呼び，Mizar を「ミザー」，「ミザール」，「マイザー」等と呼び，Arcturus を「アルクチュラス」，「アークツールス」，「アルクトウルス」，「アークチュルス」等々，其の他，こうした例は多い．此等は要するに今日の我が日本に於いて，外國語の種々な系統が全く無統制に入つて來てゐるため，更に此等の發音をカナで表はす方法が統一されてゐないこと等のために起る差違であつて，今の國情からは或る程度まで止むを得ないものと，一應，許さなければなるまい．しかし，嚴密に「我が日本語」といふ立場から考へれば，上記の如き寛大な心で此等の無統制を其のまゝ許して置くべきものでは無いこと，勿論である．いつかは，適當な機會に，嚴密な調査研究を經て，統一されるべき筈のものである．只その場

合に，（前にも述べたことであるが），『カナを以つて表はす新日本語を決定するのが主眼であつて，決して西洋語の發音をカナで忠實に寫し取るといふことにのみ囚はれてはならない』ことを，くれぐれも注意すべきである．吾人は，今立ち入つた理由は（胸中に持ち合はせてゐるけれど，一々書くのは面倒だから，必要が迫つて來るまでは略して置くとして）こゝに述べないまゝにし，只，最後的な形だけを，若干，模範例として，書き並べて見やう．

原名	日本語	原名	日本語
Achernar	アケルナー	Hyades	ヒヤデス
Alcor	*アルコア	Mira	ミラ
Alcyone	アルシオネ	Mizar	ミザー
Aldebaran	アルデバラン	Pleiades	*プレヤデス，又は昴，又は「すばる」
Algol	アルゴル	Polaris	北極星
Altair	*アルタイル，又は牽牛	Polarissima	*極北星
Antares	アンターレス，又は大火	Pollux	ポルクス
Arcturus	*アークトゥル．又は大角	Praesepe	*ペレセーペ
Betelgeuze	ベテルギウズ	Procyon	プロシオン
Canopus	カノープス，又は老人星	Proxima	*最近星
Capella	カペラ	Regulus	レグルス
Castor	*カストア	Rigel	リーゲル
Deneb	デネブ	Sirius	シリウス，又は天狼
Denebola	デネボラ	Spica	スピーカ，又は角星
Fomalhaut	*フオマルホート	Vega	ヱーガ，又は織女

此の外，特に英語でなじみの星群の名もある．

洋名	日本名
Great Dipper	北斗
Orion's Belt	三つ星
Southern Cross	南十字架

星座の名を一通り論じた序でに，自分はこゝに最も妥當だと信ずる星座の名の一覽表を次に掲げることにする，總計88座，この外，現今の天文書には用ゐられないけれど，古い文書にのみ現はれ，專門家よりも，却つてアマチュアたちに忘れられない珍しい星座が若干ある．（天文年鑑1929年乃至1932年を見られよ．）此等は改めて論ずることにする．

星座學名	邦譯
Andromeda	アンドロメ
Antlia	ポンプ
Apus	ふうてう(風鳥)
Aquarius	みづかめ(水瓶)
Aquila	わし(鷲)
Ara	さいだん(祭壇)
Argo Navis	アルゴ船
Aries	ひつじ(羊)
Auriga	ぎよしや(馭者)
Bootes	まきを(牧夫)
Caelum	てうこくぐ(彫刻具)
Camelopardalis	きりん(麒麟)
Cancer	かに(蟹)
Canes Venatici	れうげん(獵犬)
Canis Major	おほいぬ(大犬)
Canis Minor	こいぬ(小犬)
Capricornus	やぎ(山羊)
Carina	りうこつ(龍骨)
Cassiopeia	カシオペヤ
Centaurus	センタウル
Cepheus	セフェ王
Cetus	くぢら(鯨)
Chamaeleon	カメレオン
Circinus	コンパス
Columba	はと(鳩)
Coma	ベレニスの髮
Corona	かんむり
Corona Australis	南かんむり
Corvus	からす(烏)
Crater	コップ
Crux	十字架
Cygnus	はくてう(白鳥)
Delphinus	いるか(海豚)
Dorado	かぢき(旗魚)
Draco	りよう(龍)
Equuleus	こうま(小馬)
Eridanus	エリダン河
Fornax	化學爐
Gemini	ふたご(双子)
Grus	つる(鶴)
Hercules	ヘルクレス
Horologium	とけい(時計)
Hydra	ヒドラ
Hydrus	みづへび(水蛇)

星座學名	邦譯
Indus	インデアン
Lacerta	とかげ(蜥蜴)
Leo	しゝ(獅子)
Leo Minor	こじゝ(小獅子)
Lepus	うさぎ(兎)
Libra	てんびん(天秤)
Lupus	おほかみ(狼)
Lynx	やまねこ(山猫)
Lyra	こと(琴)
Microscopium	むしめがね(顯微鏡)
Monoceros	いつかくじう(一角獸)
Mensa	ひらやま(平山)
Mucca	はへ(蠅)
Norma	ぢようぎ(定規)
Octans	八分儀
Ophiuchus	蛇遣ひ
Orion	獵夫オリオン
Pavo	くじやく(孔雀)
Pegasus	神馬ペガス
Perseus	ペルセウス
Phoenix	ほうわう(鳳凰)
Pictor	ゑかけ(畫架)
Pisces	うを(魚)
Piscis Austrinus	みなみうを(南魚)
Puppis	とも(艫)
Pyxis	らしんばん(羅針盤)
Reticulum	レチクル
Sagitta	や(矢)
Sagittarius	いて(射手)
Scorpius	さそり(蝎)
Sculptor	アトリエ
Scutum	たて(楯)
Serpens	へび(蛇)
Sextans	六分儀
Taurus	うし(牛)
Telescopium	とうめがね(望遠鏡)
Triangulum	さんかく(三角)
Triangulum Australe	南三角
Tucana	トウカン鳥
Ursa Major	おほくま(大熊)
Ursa Minor	こくま(小熊)
Vela	ほ(帆)
Virgo	をとめ(乙女)
Volans	とびうを(飛魚)
Vulpecula	きつね(狐)